

競い合って強くなれ!



2022.12.7(水) ときなんマラソン大会



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第30号 —
2022.12.28



強豪国ブラジルと、もはや互角ではないか。改めて今回のW杯は、日本人の監督、選手がすでにワールドクラスであることを証明してくれたのではないかと思う。

ところで、朝日新聞が報じたサッカー関連記事のなかに、こんな選手がいた。それは、川崎フロンターレの小林悠選手だ。W杯の代表選手にはならなかったが、その地道な活動に頭が下がる。

彼は家庭の経済的な理由で、サッ

2022.12.28

1番のファン

*カッコいいはカッコいい

校長 都筑 祐一

サッカーよりも野球。

そんな私も、このときだけは熱くなる。4年に1度、サッカーW杯だ。

対ドイツ、対スペインの逆転勝利。決勝トーナメント、クロアチア戦のPKによる敗戦まで。深夜だろうが、早朝だろうが、日本の試合から目が離せなかった。

そのクロアチアが優勝6回、世界ランク1位のブラジルをPKで破り、そのまま準決勝まで駒を進めた。

素人の私は考える。ならば日本も

カーを続けられない子どもたちを支援する活動に参加している。

自身、母と兄の3人暮らし。幼少期を通して苦しい生活を余儀なくされた。部屋は寝るところと、ご飯を食べるところの2つ。夏はご飯に麦茶をかけたお茶漬けと漬物。スパイクは先輩から譲り受けたお古。

小林選手はこう振り返る。

「いつどんなときも、母は試合を見に来てくれて、僕の1番のファンです。小さい頃は、ゴールを決めてピースサインをするのが生きがいでした。それを母が喜んでくれるのが一番うれしかった」

プロになりたかった理由の1つが母に楽をさせてあげることだった。

そして、「今は貧しくても、しっかりと自分の目標に向かっていけば、成功することもできる」という実体験を子どもたちに伝えていく。

去る12月7日、マラソン大会を行った。友だちと競い合い、自分の心と戦う厳しい大会だ。子どもたちは、その戦いから逃げることなく、自分のゴールを目指した。

あるお母さんがつぶやいた。

「真剣に走る姿を見るだけで、涙が出てきます」

ときなんっ子1人1人に、1番のファンがいる。その声援を受けながら子どもたちは全力で走り続けた。

やっぱりカッコいいはカッコいい。子どもたちの頑張りから拍手!

